

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム ホームタウン宝木 (かえでユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31 (028-623-1485)		
自己評価作成日	平成22年 2月 18日	評価結果市町村受理日	平成22年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="#">トップページ：介護サービス情報公表システム：栃木県</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター
所在地	栃木県宇都宮市大和2-12-27 小牧ビル3F
訪問調査日	平成22年 3月 15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な利用者様から様々な事を学び、その人にあった自立を考えられるグループホームを目指しています。そのためには、軽度・自立度の高い利用者様だけを受け入れるのではなく、重度者、支援困難者も受け入れる。そして、様々な利用者様をケアできるよう、健康管理、身体介護、認知症の適切な知識、技術の内部研修、外部研修の機会を設け、主体的に学ぼうとすれば学べる機会を設けています。そして、ゆくゆくは、人が生きるとは、生活するとは、単に生命を維持するのとは違う事に気づき、ケアの有り方、支援のあり方を煮詰められる方向を目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから約一年、法人で二ヶ所目のグループホームとして、立ち上げ時の課題を解決しながら運営を行ってきた。多くの介護施設の運営をしている法人のノウハウがあり、それを活かして介護業務の中で遭遇する様々な状況に対的確な判断と、処置が出来る強みがある。さらに介護に取り組む姿勢として、従業員に対し介護技術向上に対する研修などの機会を積極的に設けると共に、利用者から学ぶ姿勢を徹底している。運営の軌道はやっと緒に就いたところであり、解決すべき課題はまだあるが、一つづつ解決して、利用者のQOLを高く保てる事業所に発展していくことを期待します。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念について、開所以降、特に改めて公示される機会がないが、今後煮詰めていく必要がある。		開設して一年になるが、まだ理念の作成には至っていない。この一年間の運営を通して感じたこと、大切に思ったことを基本に、理念作成に対する活動の具現化について取り組み中である。	事業所の長所を示し、支援活動に対する方向性を明確にするため、理念の設定は必要不可欠です。サービス向上に全職員一体となれるような理念の速やかな設定を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所、薬局、理容店、酒店等、限られてはいるが、利用時にいくらかは交流がある。近隣の方とは、時折の散歩時に挨拶を交わす程度である。		開設から事業所内の課題対応のため、地域との連携に対する意識が薄かったのが現実であり、現在は近隣の商店とのつきあい程度しかない。自治会への加入を含め、どのように連携を深めていくか検討中である。	利用者が地域の一員として暮らせるよう、自治会などの地域資源の活用を図ると共に、施設自身も地域の一員としての役割を果たすような関係づくりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は現時点では充分出来ていない。ボランティア等を受け入れ、認知症を理解して頂く機会を設ける等何らかの対応を検討したい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月に1度開催。今後ボランティア等を会議に受入れる等会議を有効活用していきたい。		4月に開設し、12月に1回目、3月に2回目の会議を開催することができた。以降開催日を決めて、定期的な開催の予定である。現状は施設からの報告が主な議題であるが、自治会長の出席もあり、サービスの充実に活かせるような議題を模索中である。	家族や利用者の参加を働きかけると共に、運営推進会議の参加者に状況を報告し、アドバイスをいただく双方向型の会議形態を構築し、サービス向上につなげていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新規の事業所であるため、書類関係等の相談をさせていただくことも多い。		行政への届け出に関する書類の相談や、質問など必要に応じた連携は取っている。今後必要が出てくるとされる生活保護に関する相談なども行い、さらに連携を深めようとしている。	事業所の課題を相談するなど、積極的に情報を発信して、相談にのってもらえるような関係づくりをしていくことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく理解しているかは疑問だが、出来るだけしないようにという意識はあると思う。		拘束に関する指針があり、鍵かけや身体拘束のような明らかな事例はない。家族からの拘束の要望にも粘り強く説得を試みている。指針が正しく理解されていないようなケースが見られる時があり、さらに徹底するよう取り組んでいる。	全職員が拘束に関して正しく理解をするよう、研修会を開くなどして、徹底して拘束のないケアに取り組んでいくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と一部の職員は、研修等で学ぶ機会があり、虐待やそれにつながるような言動には注意を払っていると思う。			

GHホームタウン宝木, かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と一部の職員は、研修等で学ぶ機会はあるが、それについての話し合い等は特別していない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の面談や契約時に、十分説明しており、理解・納得を得られていると思う。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日常の係わりの中で、出来るだけその声を拾いたいと思っている。家族には、出来るだけ、来訪時にお話しをうかがうようにいる。		連絡帳など仕組みとして利用者や家族から意見を吸い上げる機会は整っていないが、面会やケアカンファレンスの来訪時に意見を伺い運営に反映させるよう意識を持って取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な書類の提出や個人面談等、機会は設けられている。要望(支援の仕方、係り等)は可能な範囲受入れている。		定例の職員会議や定期的な面談、自己申告書の提出などを通して職員との意見交換の機会は十分あり、職員の意見は運営に反映されている。具体的には役割分担や、ケアの仕方での改善があり、今後とも積極的に意見の反映をして行こうとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、人事考課表や研修計画シート等の提出と個人面談がなされている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部の勉強会へ、参加の機会はある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加時に交流の機会はあると思うが、それを積極的に利用できていないと思う。			

GHホームタウン宝木, かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入所前にも利用者と面談をし、アセスメントを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や契約時に、丁寧に面談をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の経緯にもよるが、場合によりケアマネージャーの方等も含めて相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人差はあるが、ホームの掃除や食事作りを手伝っていただいたり、一緒に談話を楽しむ等心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人差はあるが、家族には、入所後も、以前の事をお聞きしたり、ホームでの事も相談したりしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人差があり、家族頼りになってはいるが、時折ご自宅等へのお出掛けになったり、ご友人からのお便りの返信を促す等している。		家族や利用者からよく話を聴いて関係を把握すると共に、要望に応じて出来るだけ支援をしている。例えば外出支援や外泊をしてみよう、友人に電話をしたり、手紙をもらった時は返信することを勧めたりなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係把握には十分努めており、時には職員が介入する等している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方は他施設への入所や入院等になり、特にその後の支援等には至っていない。			

GHホームタウン宝木, かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望、現実とのギャップによる混乱、利用者間の人間関係による悩み等、その利用者さんの状況に合わせ、コミュニケーションを中心に対応している。また、一部の職員は回想法を試み、利用者さんの情緒の安定を図っている。	利用者の状況に合わせた対応で意向の把握に心掛けている。言葉で意思表示が可能な利用者には十分に会話をして対応し、会話が難しい場合は家族の話や生活歴から判断している。情緒不安定の利用者には回想法なども試みている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを通じ、また様子観察の中で、時には家族に確認したりして、把握に努めてはいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時には詳細を記録をしたりして、把握に努めてはいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにより本人の状況の把握、家族さんの要望も受入れ、介護計画を作成している。ただ、不規則勤務のため、全員での話し合いの機会が持ちにくく、こうした点が今後の課題である。	家族や利用者とはよく話し合い、要望を十分に踏まえたうえで、職員の意見も取り入れて介護計画書を作成している。さらに利用者の変化など状況に応じた見直しもタイムリーに行うようにしているが、職員間の情報交換機会の少なさに課題がある。	職員間の情報交換がより円滑に行われるよう。会議の設定をするなどの仕組みを整えることを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必ずしも記録が十分とは言えないが、出来る限り努めてはいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的な支援に努めてはいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の買い物、理髪店に通っている。また、外部からの訪問は、訪問マッサージ、訪問歯科を利用している。			

GHホームタウン宝木、かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価（かえでユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の段階又は、通院の発生した段階で、家族と相談し、医療機関を決定している。	家族や利用者の希望を尊重し、かかりつけ医を希望する利用者は、家族同伴で診察を受けてもらっている。それ以外の利用者はホームの協力医に定期的に診察を受けるよう支援している。必要に応じて家族との情報交換も行っている。歯科医の往診は毎週全員が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時、デイサービスの看護師や訪問看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に入院された利用者は1名だが、その際の情報交換や相談は、家族も加わり、適切に行われたと思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取り説明を行う。入院が必要なほど医療依存度が高まればホームでの対応は困難な事を説明。また、現時点では終末期のケアまでには無いが、そうした状況になった際には医師の見解、訪問看護の協力、家族の希望等を勘案しケアを進めていく。	協力医、訪問看護と連携して終末期の対応はできる限り行う方針は打ち出し、入居時に利用者や家族に説明をしている。まだ事例はないが、発生した場合は、利用者や家族をはじめとした関係者と連携を良く取って進めていこうとしている。	まずは研修会などを通して、全職員に看取り介護に関する認識をしっかりと持ってもらうような取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、定期的な訓練には至っておらず、随時上司に連絡して指示を仰ぐことが多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地域との協力体制は出来ていない。特に夜間の誘導は、人員不足もあり今後の課題である。	一度火災防災訓練を実施した。緊急時マニュアルも整備されており、職員にはある程度の心構えはできている。夜間は警備会社との契約もしているが、課題があり、地域との協力体制の構築に向けて取り組もうとしている。火災以外の災害に対する対応も考慮中である。	災害の種類や発生時間などいろんなケースを想定し、訓練すること、地域との協力体制、非常用備品の備蓄など幅広い観点から対策を講じておくことを期待します。

GHホームタウン宝木, かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を歩んできた一人の人格者として、利用者さんの呼び方、会話の仕方等失礼にならないように注意している。プライバシーに関しては、居室に入るときノックをする、職員が居室に入るとき本人の同意を取る等配慮している。	利用者1人ひとりの状況に合わせて、時間をかけて丁寧に向き合い、人格を尊重した対応をしている。名前の呼び方や会話にも注意して、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、日々の支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事柄により、希望をお尋ねしたり、汲み取るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲での希望には沿えるよう努めてはいるが、人数の職員による個別の対応となると限界があり、十分にとまかない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内の鏡の数が少ないと感じている。身だしなみは、衛生に直結するため気配りをしているが、その人らしいおしゃれができるような支援というと、特別にはしていないと思う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に取っている。準備や片付けは、状況により一緒にすることもあった程度。季節に合わせた食事(年越しそば、おせち料理等)を提供したり、出前を頼むこともある。	食事は朝夕は職員が順番で都度メニューを考えて提供している。昼食は土日以外はグループ内のディサービス配膳センターより取っている。食べる時は職員と一緒にテーブルを囲む、利用者の状況に合わせて刻みにしたりなどして対応している。	毎日の食事は高齢者の体調管理に直結します。メニューはその日の職員任せになっており、トータル的なバランスが懸念される。食事内容について気にしている家族もあり、計画的なメニュー作成、及び家族への報告を期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、医師の指示により、利用者さんによっては食事の量を減らしている。また、水分補給は3食の食事、10時、15時のお茶の摂取量が減少した際には、記録と共に、水分補給の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に2回の訪問歯科による口腔ケアが行われており、状態は適切に把握されてる。昼食・夕食後は行っているが、朝食後の口腔ケアについては、職員1名での対応は難しく、行っていない。			

GHホームタウン宝木、かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価（かえでユニット）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんに合わせてトイレ誘導をしている。便秘の利用者さんには、起床時牛乳の摂取、日中の運動量の増を図っている。	健康・衛生管理簿で利用者毎の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促すなどして、出来るだけ自立が図れるよう支援している。便秘の傾向が見られた時などは水分摂取や運動量の増加などで改善を図るよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内部勉強会で学んだりしており、利用者によっては記録をして把握し、適切な対応をとるようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を希望する方、重度化により2人介助が必要な方、仲の良い利用者同士・夫婦2人での入浴を希望される方等に合わせ、入浴時間も午後から夕食後まで時間を設定し、可能な限り希望に合わせている。	入浴日や時間など、特に規定せず利用者の要望にきめ細かく対応して入浴できるよう配慮している。利用者同士二人で入浴したいといった要望にも対応している。介護度の高い利用者については併設のディサービスのリフト設備付き浴場を利用するケースが多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に休息は自由であり、ご自身で不可能な方は、状況により臥床していただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿やチェック表を作成、利用している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めているが、実施に個人差はあると思う。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に個人差があり、希望を示すことができない利用者はあまり戸外には出られていないと思う。	外出の意思表示ができる利用者には希望に応じて散歩や買い物などの外出の介助をしている。一方意思表示が十分できない利用者には外出の機会があまり持っていない。	もっと外出の機会を増やして欲しいという家族の希望もあり、日常的な外出の機会を作ることや、意思表示が十分出来ない利用者についても外出の機会を設けることを期待します。	

GHホームタウン宝木, かえでユニット

自己	外部	項目	自己評価 (かえでユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持については、利用者の状況等を相談し、利用者と家族とにお任せしており、買い物にお連れした場合には、自分の財布から出される方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、ご希望でかけてお繋ぎすることもある。手紙のやり取りも、返事を促す等の支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に不快や混乱を招くような刺激はないよう配慮されていると思う。控えめだが、季節の絵や花を飾ったりしている。採光はカーテンで調整し、室温は、職員がまめな温度設定を行う。		二つのユニットが左右対称に配備され、内装は木質を基調に仕上げられ落ち着いた感じになっている。スペース的には十分な広さを有している。季節の花や、壁には家庭的な絵や写真が張り出している。室温管理や採光も特に問題なく居心地の良い空間になっている。	スペースを有効活用して、歓談が出来るソファなどを増やし、よりくつろげる共用空間に工夫することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂で過ごされる方が多く、そこで独りにはなれないと思うが、それ以外の場所では可能である。居間兼食堂の二人掛けソファには、気の合う利用者同士がよく一緒に座られている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で家族に説明し、出来る限り家庭で使用した物をホームで使うようにしている。そのため、ベットを使用しない利用者さんや、テレビ、こたつ、テーブルの持ち込み等、その利用者さんに合わせ居室を利用して頂いている。		備品は寝具から全てが利用者の持ち込みになっており、ベッドを使う利用者や、イ草の敷物で布団を使ったり、皆自分の生活習慣に沿った使い方をしている。さらに使い慣れたものを持ち込んで自分なりの居住空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレの表示を大きめにしたりはしているが、自立した生活を送れるような工夫という点と乏しいと思う、			